

OKINAWA GENERAL CONSTRUCTORS ASSOCIATION

沖縄建設協会報



令和7年

No.666

11
月号

今月号の主な内容

- ◆ 沖縄総合事務局との意見交換
- ◆ 不当要求防止講習会開催
- ◆ 高校生現場見学



<http://www.okikenkyo.or.jp/>

目 次

<NEWS>

沖縄総合事務局との意見交換	1
不当要求防止責任者講習を実施	2
ICT活用研修と圧入工法技術講習を開催	2
災害時体制強化で研修を実施	3
沖縄工業高校の建築科と土木科の現場見学会	3
美里工業高校の鉄筋・型枠実習	4
フォトコンテストの応募作品を最終審査	4
支部活動報告	5
那覇支部 安全パトロールを実施	
那覇支部 那覇警察署と合同防犯パトロール	
浦添・西原支部 県外視察研修で北陸地域を視察	
浦添・西原支部 てだこまつりに協賛金贈呈	
中部支部 道路清掃ボランティアを実施	
北部支部 安全パトロールで17現場巡回	
南部、那覇、北部支部 CPDSオンライン講習会実施	
宮古支部 女性技術者らの交流会で視察研修	
八重山支部 石垣市に資材単価公表を要望	
八重山支部 平良支部長が職業人講話	

<建設雇用改善推進コーナー>

Message～後輩たちへ	10
---------------	----

<メッセージボード>

建設工事の請負契約に関する法令遵守の徹底について	11
--------------------------	----

<事務局から>

協会の動き	12
今後の日程	12

<会員の異動>

<お知らせ>

西日本建設業保証からのお知らせ	14
-----------------	----

<表紙写真>

【青年部会第16回フォトコンテスト
～島の魅力～優秀作品より】

〔造の部 沖縄建設新聞社長賞〕

題 名：白い雲と赤のハーモニー

撮 影 者：新垣 竜陽

撮影場所：宜野湾浄化センター
(宜野湾市)

沖縄総合事務局と意見交換会を開催

不調不落などテーマに意見交わす



不調不落の現況や対策について意見を交わした

沖建協と沖縄総合事務局の意見交換会が9月30日、那覇市の同局で開かれた。開会挨拶で津波達也会長は「建設産業の持続性についての議論が盛んに行われており、その中で最低制限価格の引き上げなども話題になっている。会計法や規制の問題など、本日のテーマである不調不落にも関わってくる課題でもあり、意見交換を通して一步一步改善へと前に進めていきたい」と述べた。これに対し、山田哲也次長は「不調不落など入札に係る問題が顕在化している。一足飛びには変わらなくても、少しでも前に進めるよう、改善に向けて率直な意見をお願いしたい」と話した。

意見交換では不調不落対策について現況や対策について意見が交わされたほか、沖総局から「PPP/PFI事業について」、「『スリム化ガイド』アンケート調査(結果)」などの情報提供が行われた。

意見交換会には、沖総局の山田次長、山本大志開発建設部長、岡本雅之企画調整官、國場善秀技術企画官、松下一樹技術管理官、知名広道総括技術検査指導官、松川剛技術管理課長、安次富長一品質確保対策室長、伊佐真幸建設公務室長が出席。沖建協からは津波会長、新里英正副会長、



津波会長



山田次長

仲本豊副会長、呉屋明副会長、名嘉太助副会長、上原進副会長らが参加した。

不当要求防止責任者講習で自衛措置強化を呼び掛け

9月24日、浦添市の建労センターで不当要求防止責任者講習を開催した。沖建協の久高唯和事務局長は「講習会は建設工事から暴力団を排除し、建設業の健全な発展を図ることを目的に沖縄県警察本部と暴力団追放沖縄県民会議も連携して開催している。近年は、暴力団員による金銭要求、労働者の送り込みなどの事例が確認されており、業界全体での警戒と対応が求められている。講習を通して不当要求の防止や自衛措置の強化に取り組んでほしい」と呼び掛けた。

講師を務めた県警本部組織犯罪対策課暴排対策係の新垣秀仙氏が暴力団の排除対策推進について説明。全国暴力団組織の概要や現況、県内の状況などを紹介した。新垣氏は「平成4年の暴力団対策法の施行による資金獲得活動への規制が強まり、暴力団や構成員の数は減少傾向にあるが、インターネットやSNSなどによる活動は拡大している。また、近年は暴力団に属さない反社会的集団『半グレ』や匿名・流動型犯罪グループ『トク



講習会参加者ら

リウ』と呼ばれる犯罪様式も増加しており、依然として警戒が必要な状況にある」と指摘した。

講習ではこのほか、DVD上映や沖縄弁護士会と暴力団追放沖縄県民会議による「不当要求への対応について」の講義も行われた。

講習会には、那覇支部、南部支部、浦添・西原支部、中部支部、北部支部の会員企業から86人が受講。7月3日に行われた八重山地区の講習会では18人、8月26日の宮古地区では24人が受講し、修了書が交付された。

ICT活用研修と圧入工法技術講習を開催

9月17日、沖建協と沖縄県土木施工管理技士会(会長:仲程俊郎)共催の「ICT活用(CIMモデル)研修並びに技術講習(圧入工法)」が浦添市の建労センターで開かれた。沖建協・技士会の会員企業ら37人が参加した。

講習では(株)オカベメンテの岡部成行代表取締役が登壇し、CIMモデルの基礎知識や県内の活用事例を紹介した。岡部氏は「建設業の労働災害発生率の高さや人口減少による人手不足を背景にICTの活用は生産性を高め、安全性を向上させるために欠かせない」と述べ、ICT導入の有効性を説明した。

また、調査・設計から施工、維持管理に至る一連のプロセスにICTを取り入れる必要性を強調し、規格や施工プロセスの標準化を進めることで、さらなる効率化が図られると述べた。

具体例として、ドローンやレーザースキャナーに



CIMモデルの基礎知識学ぶ

による三次元測量では「短時間で高精度のデータを取得でき、省力化につながる」と説明。また、AR(拡張現実)による施工イメージの可視化は、安全設備や構造物配置などを事前に確認でき、危険要因の把握に役立つと紹介した。

技術講習では、(株)技研製作所の担当者が「圧入工法」について説明。従来工法との違いなど実例を交えながら解説した。

各支部との災害時の連絡体制強化で研修

9月29日、浦添市の建労センターで令和7年度支部事務局長会議を開いた。「災害時における対応能力・体制の構築強化」をテーマに、沖建協各支部の事務局長らが協会支部組織を活かした災害への支援体制強化に取り組んだ。

会議に先立ち源河忠雄専務理事は「本日の会議では災害発生時における情報共有が大きなテーマであり、本部及び各支部、事務局長が研修を通して防災システムの理解を深めてほしい」と述べた。

講師を務めた北野雅史氏は「昨年1月の石川県能登半島地震を機に、通信と電気が寸断された状況でどう災害対応するかを検討する必要が生じた。今回、通信の確保と機材の整備についての取り組みを学び、体験してもらおう」と述べ、研修の重要性を伝えた。



衛星通信システムを確認する参加者ら

沖建協では、会員企業の職員を中心に約700人の防災リーダーを任命し、災害復旧ネットワークの整備と対応体制を構築。被災地に近い支部が最前線となり、本部と情報共有できるように電源となるガスボンベ式発電機と衛星通信システム「Starlink」を導入。事務局長らが実際にStarlink経由でインターネットに通信する方法を学んだ。

沖縄工業高校の建築科と土木科の生徒らが現場見学

沖縄工業高校建築科と土木科の生徒を対象とした現場見学会を行った。建築科は9月26日、(有)大協建設・(有)上地建設JVが施工する「令和7年度(仮称)読谷村屋内運動場建築工事」と沖縄ピーシー(株)の工場を生徒79人が見学。土木科は10月7日、74人がムトウ建設(株)・(有)尚建設JV施工の「県道20号線(泡瀬工区)橋梁整備工事(橋面工その2)」と(株)屋部土建・(株)大興建設JV施工の「中城湾港(泡瀬地区)B1・B4護岸整備工事(R6)」を見学した。

建築科が見学した読谷村屋内運動場建築現場では、基礎工事や磁気探査による不発弾調査、地盤の確認作業などを見学し、建物が完成するまでの工程を学んだ。大協建設の名嘉眞朝継建築課長は「入社して4～5年は現場経験を重ねながら、資格取得に取り組むことになる。今日の体験を将来現場に立った時に思い出して、業務につなげてほしい」と激励した。

土木科の生徒らは、橋面施工の見学とドローン操作、GNSS測量、VR体験を通じてICT施工



地盤調査の工程を見学した(建築科)



ドローン操縦を体験した(土木科)

やBIM/CIMの活用を学んだ。沖縄工業高校卒業で今年入社した屋部土建の山城博誠氏は「資格取得に挑戦し、将来に備えてほしい」と後輩たちにエールを送った。

美里工業高校の鉄筋・型枠実習第2班がスタート

6月から実施している美里工業高校建築科への校外講師派遣は、9月9日から第2班のプログラムがスタート。3年生10人を対象に鉄筋・型枠の実技指導を行っている。建設業の入職促進などを目的に実施しており、講師は1級建築士・1級建築施工管理技士の玉城保氏が務める。

プログラムでは、図面の読み取りや解体作業、鉄筋・型枠の加工から建て込み、コンクリート図の学習まで、基礎から応用へと段階的に指導する。実習では、ベニヤ板と桟木を使って型枠パネルを製作し、鉄筋を組み合わせた小規模なモデルハウスの骨組みを作る。

プログラム開始から3週間後の9月30日、生徒らが柱や梁の加工を行い、玉城氏から寸法取りや釘の打ち方などについて指導を受けていた。型枠の建て込み作業では、丸ノコや金づちを使いながら木材と鉄筋を組み合わせ、実際の現場と同様の工程を体験。実習を終えた當山未来さんは「初めての型枠加工に戸惑ったが、丁寧に指導してもらえたのでうまくできた」と笑顔を見せた。小嶋堂心さんは「現場に行かないと見られない作業を学校



玉城氏の指導を受けながら型枠の寸法を確認した



型枠加工に取り組む生徒たち

で体験できた。授業で学んだイメージよりも難しかったけど、実物を使った作業は、理解が深まった」と振り返った。

第17回フォトコンテストの最終審査で受賞作品選定

青年部会(古波蔵太志部会長)は9月29日、浦添市の建労センターで「第17回フォトコンテスト～島の魅力～」の最終審査を行った。応募作品280点の中から、最優秀賞として人の部は小出由美氏の「仲間」、造の部は服部葉奈氏の「未来へ」を選定した。

審査に先立ち、審査委員長の東邦定氏が「AIがいろいろな分野に進出してきていて、写真コンテストもAIに対して正しい知識を持たないと飲み込まれてしまう懸念を持っている」と述べ、最近の状況を紹介。そのうえで「フォトコンテストには建設業で働く人や風景を捉えたストレートで一直線な作品が多い。楽しみながら審査してもらいたい」と呼び掛けた。

今回のフォトコンテストでは、高校生を対象にし



審査員らが作品を審査した

た撮影会を実施し、学生からの応募が増加した。人の部は104作品、造の部は176作品の応募があり、一次審査で人の部36作品、造の部23作品が選出された。最終審査では一次審査を通過した作品を審査し、各賞の受賞作品を選定した。表彰式は11月17日に県庁で行われる予定。

■那覇支部と建災防那覇分会が4現場をパトロール

那覇支部は10月3日、建災防那覇分会と合同で安全パトロールを実施した。宜名真弘和事務局長ら安全指導者8人が2班に分かれ、那覇市、南風原町、浦添市の4現場を巡回。熱中症対策や重機まわりの安全対策、作業環境の状況などを確認した。

南風原町の「(仮称)みつわ産業南部配送センター新築工事」現場では、100tクレーンが稼働する鉄骨建方の現場を点検。立入禁止措置や人払いの実施状況、足場や通路の整理、作業員の動線確保などを見て回った。熱中症対策としてWBGT計を設置し、飲料の常備や職長による声掛けも行われていることも確認。講評では「大規模な現場だが不備が少ない」と評価しつつ、「一部で差し筋の飛び出しが見られる」「仮設通路を明確に区切る仕切りがあるとより安全性が高まる」と改善を求めた。

このほか、中央消防署(仮称)識名出張所建設工事、令和5年度小禄道路擁壁他工事、県営牧港団地建替工事の現場も視察した。



大型クレーンが稼働する現場を点検した



熱中症対策の状況も確認した

■那覇支部が那覇警察署と合同防犯パトロール

那覇支部(黒島一洋支部長)は10月10日、第28回支部防犯パトロールを実施した。

パトロールは2017年7月に那覇警察署からの委嘱状交付を受けて実施している。今回は支部南分会のメンバーら14人のほか、那覇警察署と首里交番から警察官が参加。合同で夜間のパトロールを行った。

参加者はそれぞれの仕事を終えた後、日没後の19時頃に集合。パトロール中に児童らを見かけた時は声掛けを行って、早めの帰宅を促すなど、防犯ボランティア活動の注意事項を確認して出発。上間小学校周辺の所定ルートを生徒を徒歩で巡回した後、各ルートの状況を参加者が報告して情報共有した。



パトロールに参加した皆さん



パトロールの様子

支部活動報告

■浦添・西原支部が県外視察研修で北陸地域を視察

浦添・西原支部(内間司支部長)は9月17から19日の3日間、富山県の黒部ダム・立山アルペンルートなど北陸地域を対象とした県外視察研修を行った。地域建設業の発展に向けた取り組みの視察などが目的で、内間支部長をはじめ、支部の総合企画委員会(久保田旭委員長)と支部会員ら15人が参加。能登半島地震の応急対応や治安対策の重要性、地域の歴史・文化について理解を深めるとともに、富山県建設業協会会員らとの意見交換も行った。

1日目は富山県の薬問屋や隈研吾氏が設計した富山市ガラス美術館を視察。富山城で歴史的建築物の保存と観光活用について学び、富山県建設業協会の会員らと「富山県の建設業界の現状と課題について」「能登半島地震後の地域変化について」をテーマに意見交換を行った。

富建協は業界の現状と課題について、若年層の土木業界への就職希望が少なく、技術者確保が困難な状況であることや高齢化と人材不足で施工体制の維持や技術継承に課題があるとした。地震後、国土交通省からの依頼で水の供給や仮設トイレ搬送などの支援を行ったと説明。また、支援現場での窃盗被害が相次いだことから、災害時における治安確保も重要との認識を示した。

研修2日目は黒部ダムを見学。ダムの水力発電と



黒部ダムの慰霊碑の前での記念撮影



こまつの杜の車両展示の様子

しての機能のほか水害などの自然災害への備えとしての役割や観光資源としての重要性を学ぶとともに、土木技術の重要性を再認識した。最終日は、建設機械メーカー「(株)小松製作所」発祥地である石川県小松市の「こまつの杜」、日本自動車博物館を視察し、技術革新の歩みなどを学んだ。

研修を終え、久保田委員長は「研修で得られた知見と経験を今後の業務や地域活動に反映させ、建設業の発展に貢献していきたい」と総括した。

■浦添・西原支部がてだこまつりに協賛金

浦添・西原支部の安慶名健副支部長は9月29日、浦添市中央公民館で開かれた第48回浦添てだこまつり「てだこポケットフェスタ」の特別協賛金贈呈式に参加し、協賛金を寄贈した。市内の企業や団体など35社から総額875万円が集まり、まつり実行委員長の松本哲治浦添市長に手渡された。

松本委員長は「協賛企業の支えがあるからこそ、市民に楽しんでもらえる祭りになる」と感謝した。協賛金は浦添・西原支部支部をはじめ、(株)大城組、(株)太名嘉組、(株)屋部土建、浦添建設業者友の会などが協力。贈呈者代表の(株)大城組の仲西聡社



松本委員長(中央)に目録を手渡す安慶名健副支部長は「地域とともに歩み、心豊かなまちづくりに貢献したい」と思いを語った。

■中部支部が地域貢献で清掃ボランティア実施

中部支部(石川裕憲支部長)は9月25日、地域貢献活動の一環として、県道26号線沿いの中部建設会館前の歩道約1km区間で清掃ボランティアを実施した。活動は2005年から毎年継続して行っており、34回目となる今回は支部会員から60人が参加。厳しい暑さの中、熱中症や通行車両に気を配りながら作業に取り組んだ。

石川支部長は「長年にわたり地域貢献活動を継続できているのは、会員の皆さまの協力のおかげ。地域の皆さまに喜んでいただけるよう、安全に十分注意しながら取り組んでほしい」と呼び掛けた。

参加者は、二手に分かれて除草作業やごみ拾いなどを行い、用意されたごみ袋約50個分のごみと草木などを回収した。

清掃を終えた参加者からは「地域の美化に少しでも貢献できるのはうれしい」「今後もこの活動に協力していきたい」などの声が聞かれた。



除草作業に取り組む中部支部会員ら



歩道の雑草を丁寧に除去

■建災防北部分会が安全パトロールで17現場を巡回

建災防北部分会(仲程俊郎分会長)は9月19日、北部地域の建設現場で安全パトロールを実施した。名護市や本部町、国頭村など17現場を巡回し、安全管理体制や作業環境を点検した。

出発に先立ち、北部建設会館前で出発式を開き、パトロールの目的や注意事項を共有。その後2班に分かれて現場巡回を開始した。各現場では、足場や作業床の設置状況、開口部の転落防止措置、クレーンなど重機の管理、保護具の着用、整理整頓、衛生管理を重点的に確認し、改善が必要な項目についてはその場で指導を行った。

名護市の「(仮称)プレサンスロジェ名護為又Ⅲ新築工事」の現場では、開口部の養生や鉄筋キャップの取り付け、4t移動式クレーンの自主点検徹底を促した。また、「沖縄振興開発金融公庫北部支店建築工事」の現場では、クレーンの用途外使用防止や開口部の安全対策、車両搬入時の誘導員配置などを指導。点検結果は、今後の安全管理



出発式で指差唱和を実施



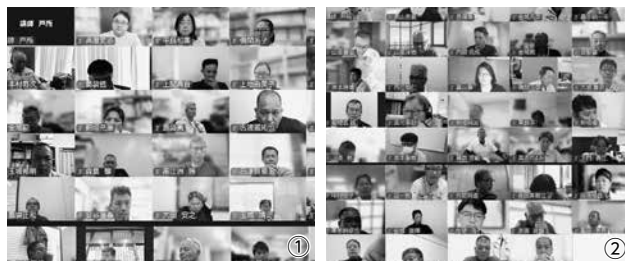
作業状況を確認した指導やパトロール活動の参考資料として情報共有する。

支部活動報告

■南部・那覇・北部の3支部でオンライン講習会

南部支部(徳元猛支部長)は9月24日、会員企業を対象にオンライン講習会「建設現場の生産性向上と省力化～今後の建設現場の方向性を考える～」(CPDS認定・7ユニット)を開催。監理技術者や現場代理人など29人が受講した。

講師は㈱クロソイドの戸所俊雄氏が務め、建設業の現状と今後の生産体制の在り方について講義した。戸所氏は、人手不足や資材高騰など業界が抱える課題に触れ、2024年問題を見据えた効率化と安全確保の両立を強調。ICT建機やドローン、BIM/CIM、AIを活用したDX導入事例を紹介し、国の「i-Construction2.0」や「CCUS」の活用が生産性向上に寄与していると説明。また、技術継承とデジタル人材育成の重要性を訴え、企業が主体的に教育体制を整える必要があると述べ



①南部支部の受講者
②那覇支部の受講者
③北部支部の技術者

た。講習会は那覇支部でも25日に行われ38人が参加。北部支部では29日に開催し、27人が参加した。

■宮古支部が女性技術者らの交流会で視察研修

宮古支部(友利勝人支部長)は9月19日、会員企業で働く女性技術者や現場業務に携わる女性職員を対象とした交流会を開催した。女性が安心して働ける職場環境づくりを進めるとともに、企業の枠を超えた横のつながりを深めることを目的に実施している。今回は7社から9人が参加。初めて顔を合わせる参加者もいる中、和やかな雰囲気での業務や職場環境について意見を交わした。

冒頭、友利支部長は「近年の建設業界は人手不足や資材高騰など厳しい状況が続いているが、地域の社会資本整備を支える建設業の役割はますます重要になっている。女性が活躍できる環境を整えることは業界全体の発展にもつながる。今回の交流を通して活動の輪を広げ、業界の活性化につなげていきたい」とあいさつした。

参加者らは午前中に平良港に整備された旅客受入施設を視察し、国際クルーズ船の税関・出入国管理・検疫機能を備えたCIQ施設の概要などについて学んだ。同施設は2020年に完成したもののコロナ禍でクルーズ船の来航が途絶え、長い間



旅客受入施設などを視察した

使用されていなかったが、23年4月から本格運用が始まった。参加者は、施設概要の説明を受けた後、最新設備や施工上の工夫、安全対策が施された箇所などを中心に見学した。

午後にはホテルアトールエメラルド宮古島で昼食をとりながら懇談。仕事と家庭の両立や職場での工夫、キャリア形成について活発な意見を交わした。

宮古支部は、今後も女性が生き生きと働ける環境づくりに向けて取り組みを継続していく方針。

■八重山建産連と石垣市との意見交換で資材単価公表を要望

9月30日、八重山建設産業団体連合会(会長：平良聡八重山支部長)と石垣市との意見交換会が石垣市役所で行われた。市側から中山義隆市長をはじめ、各部の部課長らが出席し、公共事業の発注計画や最低制限価格、地域業者の受注機会確保などについて意見を交わした。

中山市長は「資材高騰や人材育成など、業界を取り巻く課題に対応しながら公共事業の継続的な発注に努め、地域経済の成長につなげたい」と述べた。市は今年度の主要事業として、美崎町再開発や旧空港跡地区画整理、白保水原水調整池新設、学校特別教室の空調整備などを挙げた。

八重山建産連からは、公共工事の安定確保と発注平準化、滑走路延長や港湾機能強化、災害時避難路整備、若手技能者の定着支援、地元企業の受注拡大、最低制限価格の引き上げ、行政との定期的な対話の場を設けることなど7項目を要望した。

質疑では、沖建協八重山支部から資材単価の公



公共工事の安定確保で意見を交わした表を要望。これに対して市契約管財課は、現状では例規がないとし、「制度の透明性確保の観点から検討を進める」と回答した。公共建築物の耐震化状況については「旧耐震基準の市立学校14棟を更新後、長寿命化計画を見直して対応を検討する」と説明した。

平良会長は「地域建設業が持続的に活動できる環境づくりのため、行政との協働を一層深めたい」と述べ、今後も連携強化を図る考えを示した。

■平良支部長が職業人講話で建設業の役割語る

八重山支部の平良聡支部長は10月9日、石垣市立石垣第二中学校で開催された職業人講話に参加。(株)八重島工業の代表取締役として「建設業の使命と魅力」をテーマに講話を行った。

平良支部長は「道路は生活や物流、防災の基盤であり、止まると生活も止まる」などと語りかけ、建設業が地域の暮らしを支える重要な仕事であることを伝えた。

また、道路建設の工程を分かりやすく紹介し、測量や設計、舗装など多くの専門職が関わる「チームの仕事」と説明した。「道路は命の道・希望の道。災害時には私たちが緊急車両や避難経路の通行を確保し、人の命を守る」と話し、建設業の社会的責任と自身が感じる仕事のやりがいを語った。最後に、生徒らに向けて「数学だけでなく、国語や社会、化学などの学びが将来の仕事に生きる。今の努力は必ず自分の道につながる」と



生徒に語り掛ける平良支部長
エールを送った。

講話は、地域の企業人が生徒に対して仕事のやりがいや社会的役割を伝えることを目的に、同校PTA主催のキャリア学習として実施されている。

今回は建設業のほか、観光業、医療福祉、公務員、美容、スポーツなど17職種の専門家が講師として参加。建設業の講話には18人の生徒が講師の話に耳を傾けた。

工事完了後の達成感は何物にも代えがたい

実際に私もそうでしたが、就職先を決める際に土木業という業種はなかなか第一候補になりづらい面があると思います。

しかし土木業というのは現場単位で多くの事を学ぶことができ、それらが積み重なることで自分自身のスキルアップにもつながります。また、工事が完了した後の達成感は何物にも代えがたく、竣工の度にこの仕事をしていて良かったと思えます。この達成感をこの記事を読んでいるあなた達とぜひ共有できたらいいなと思っています。

担当した現場



初現場「国場川河川改修工事(R4-1)」:着手時には土木業の事を何も知りませんでしたが、現場で多くを学び成長することができました。竣工時には胸の奥に込み上げてくる熱いものがありました。



読谷高等学校出身

知花 秋也さん(32歳)

(協栄海事土木株式会社 工事管理部)

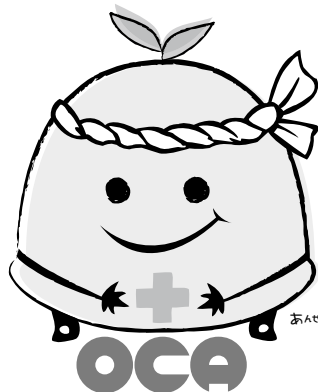
ちばな しゅうや/読谷村出身/2011年3月読谷高等学校卒業/2022年9月協栄海事土木株式会社入社

入職のきっかけ:知り合いから紹介され、転職という形で入社することになりました。未経験の職種ということで不安もありましたが、熱心に勧誘して頂いたこともあり、入社を前向きに考えるようになりました。入社前の面談で上司の方が語ってくれた土木業界への熱い思いと魅力に惹かれ、入社決め手となりました。

将来の夢・目標:業界のエキスパートになりたいと思っています。今はまだ勉強中ですが、尽きることの無い向上心を持ち、日々の研鑽を重ね、仕事に邁進しようと思います。将来的には、表彰を受けるような活躍を通じて、人々の暮らしを支える土木施工管理技士になりたいです。

沖縄建協「見える化」イメージアップキャラクター 「あんぜんぼーや」を現場へつれてって!!

地域と共に、未来を築く



Okinawa General Constructors Association

あんぜんぼーや

私たちは、沖縄県建設業協会会員です。



一般社団法人

沖縄県建設業協会

Okinawa General Constructors Association



建設業界のイメージアップと沖縄県建設業協会会員の「見える化」を図るため、協会のイメージアップキャラクター「あんぜんぼーや」のシールを作成しました。(A4サイズ、A3サイズ)

協会会員が施工する建設現場の出入り口など人目に触れる機会の多い場所に貼って、協会会員であることを示すPR活動に使用してください。

追加で必要な場合は、所属支部窓口で配布します。

国不建推第39号
令和7年9月19日

建設業者団体の長 殿

国土交通省不動産・建設経済局長
(公 印 省 略)

建設工事の請負契約に関する法令遵守の徹底について

昨今、建設工事の請負契約の当事者間で代金支払いに係る紛争が生じ、その相談が各都道府県及び地方整備局等の建設業許可部局へ寄せられるなど、建設業法(以下、「同法」という。)の遵守徹底に疑念を招くような事案が発生している。

同法第19条では、建設工事の請負契約の当事者は、当初及び変更契約の締結に際しては、契約の内容となる一定の重要な事項を書面に記載し、相互に交付すべきことを規定しているが、前述のような請負契約の支払いを巡る紛争については、同条の遵守が徹底されていないことがその一因と考えられる。

契約内容が書面化されていない場合、内容が不明確、不正確となり、後日紛争の原因ともなるため、工事の内容その他契約の内容となるべき重要な事項については、できるだけ詳細かつ具体的に記載し、当事者間の権利義務関係を明確にしておくことが必要である。

これまでも、請負契約の適正化について、元請下請間の取引の適正化を図るため、「建設業法令遵守ガイドライン(第十一版)」の策定や「下請契約及び下請代金支払の適正化並びに施工管理の徹底等について」(令和七年八月一日付け国不建推第十九号・国不建振第八十七号・国官参建第四十二号国土交通省不動産・建設経済局長通知)等の通知の発出等を通じて周知しているところであるが、改めて当初及び変更契約の書面化など建設工事の請負契約に関する法令遵守を徹底されたい。

については、貴団体においては、同法の目的である建設工事の請負契約の適正化を踏まえ、不平等な契約関係の是正、特に下請負人を保護するためにも、貴会傘下の事業者に対し、請負契約内容の書面化をはじめとする、同法の各種規定の徹底に万全を期すよう、周知徹底を図り、これらの徹底に向けて適切な指導に努められたい。

なお、同様の内容について、各都道府県及び地方整備局等の建設業許可部局あてにも周知しており、参考までに送付する。

2025年10月の動き

日	曜	沖建協・建産連・土木技士会・青年部会等	その他会議・講習会等
1	水		・沖縄県緑化推進委員会「緑の募金運営協議会」(南風原町)
2	木		・防災防「全国大会in兵庫」～10/3(金)迄(兵庫県)
3	金		・全国建設青年会議「国土交通省との意見交換会」(東京都) ・全国建設青年会議「準備会」(東京都) ・沖縄県「違反建築防止週間連絡協議会」(那覇市)
7	火	・沖建協「工業高校生現場見学会(沖縄工業・土木科)」(沖縄市)	
9	木		・沖縄県「沖縄県総合防災訓練全体会議」(Web) ・建設物価調査会「建設物価懇談会」(那覇市)
10	金		・おきなわ建設フェスタ事務局「幹事会及び出展者合同説明会」(那覇市)
15	水		・沖縄県「違反建築防止週間パトロール」(各所) ・沖縄不発弾等対策協議会「協議会・分科会」(那覇市) ・沖縄産業開発青年協会「沖縄産業開発青年隊創立70周年記念講演会」(那覇市)
16	木	・沖建協「工業高校生現場見学会(名護商工・建築科)」(名護市)	
17	金	・沖建協・建設マニフェスト販売センター「建設廃棄物の適正処理に係る講習会(宮古地区)」(宮古建設会館)	・おきなわ建設フェスタ事務局「実行委員会」(那覇市)
19	日		・沖縄県「沖縄県総合防災訓練(南部圏域)」(那覇市)
20	月	・沖建協「建設雇用改善推進事業会議」(建労センター)	
22	水		・九建協「地域懇談会、定例懇談会」(大分県) ・内閣府理工チャレンジ事務局「理工系女子応援ネットワーク会議」(Web)
23	木		・中部家畜保健衛生所「中南部地域特定家畜伝染病防疫実働演習」(沖縄市)
24	金	・沖建協「工業高校生現場見学会(浦添工業・建築科、インテリア科)」(西原町)	
27	月	・沖建協「労務費調査説明会(相談会)【那覇・南部・浦西・中部地区】」(建労センター)	・浦添市「津波避難ビルに関する勉強会および垂直避難訓練準備会」(浦添市)
28	火	・沖建協青年部会「役員会」(建労センター) ・沖建協「労務費調査説明会(相談会)【宮古地区】」(宮古建設会館)	
29	水	・沖建協「労務費調査説明会(相談会)【八重山地区】」(八重山建設会館)	・沖縄しまたて協会「しまたて編集委員会」(浦添市)
30	木	・沖建協「工事総合補償制度説明会(八重山地区)」(八重山建設会館) ・沖建協「労務費調査説明会(相談会)【北部地区】」(北部雇用能力開発総合センター)	・沖縄県畜産課「特定家畜伝染病に係る防疫協定連携会議」(那覇市)
31	金	・沖建協「工事総合補償制度説明会(宮古地区)」(宮古建設会館)	・九州土木施工管理技士会「事務局長会議」(福岡県)

2025年11月の行事予定

日	曜	沖建協・建産連・土木技士会・青年部会等	その他会議・講習会等
4	火	・沖建協「工業高校生現場見学会(浦添工業・建築科、インテリア科)」(現場調整中) ・沖建協「正副会長会議」(沖建協委員会室) ・沖建協「役員会」(建労センター)	
5	水	・沖建協「工事統括責任者会議(沖縄防衛局、沖縄総合事務局)」(ラグナガーデンホテル)	
6	木		・沖縄県経済団体会議「本会議」(那覇市) ・全建「労働問題連絡協議会」(東京都)
9	日		・第7回おきなわ建設フェスタ(沖縄市)

2025年11月の行事予定

日	曜	沖建協・建産連・土木技士会・青年部会等	その他会議・講習会等
10	火		・沖縄建設新聞「取締役会」(那覇市) ・九建協「専務理事・事務局長会議」(熊本県) ・九建協「西日本建設業保証との意見交換会」(熊本県)
11	木	・沖縄県「沖縄県建設雇用改善優良事業所表彰式」(県庁)	
12	水	・沖建協「工事総合補償制度説明会(北部地区)」 (北部建設会館)	・全建「秋の叙勲祝賀会」(東京都)
13	木	・沖建協青年部会「県外視察研修」～11/15(土)迄(石川県) ・沖建協「地域統括リーダー・防災リーダー研修(宮古地区)」 (宮古建設会館)	・九建協「技術担当職員研修会」(宮崎県)
14	金	・沖建協「地域統括リーダー・防災リーダー研修(八重山地区)」 (八重山建設会館)	
17	月	・沖建協青年部会「フォトコンテスト表彰式」(県庁) ・沖建協「工事総合補償制度説明会(本島地区)」 (建労センター)	
18	火	・沖建協「地域統括リーダー・防災リーダー研修(本島地区)」 (建労センター)	・全建「全国会長会議」(東京都)
19	水	・沖建協・全建「労働安全を中心とした研修会」(建労センター)	・九州建設青年会議「役員会・意見交換会・交流会」(福岡県)
20	木	・沖建協女性部会「AIに関する研修会及び建設業界で働く女性向け講演会」(建労センター)	
21	金	・沖建協・建設マニフェスト販売センター「建設廃棄物の適正処理に係る講習会(八重山地区)」(八重山建設会館)	・全建「技術研究発表会」(東京都) ・沖縄の土木技術を世界に発信する会「シンポジウム」(那覇市)
25	火		・全国土木技士会「JCMセミナー」(那覇市) ・運天港・本部港 港湾BCP協議会「港湾BCP訓練(図上訓練)」 (名護市)
26	水	・沖建協「工業高校生現場見学会(美里工業・建築科)」 (現場調整中)	・金武湾港・中城湾港 港湾BCP協議会「港湾BCP訓練(図上訓練)」(沖縄市)

[11月号会員の異動]

今月の会員の異動はありません。



沖建協会報 2025年11月号(第666号)
令和7年11月1日発行
発行人 源河 忠雄

発行所 一般社団法人 沖縄県建設業協会
〒901-2131 沖縄県浦添市牧港5-6-8
TEL.098(876)-5211
FAX.098(870)-4565
編集 株式会社沖縄建設新聞

沖縄県内の公共工事動向（令和7年9月分）

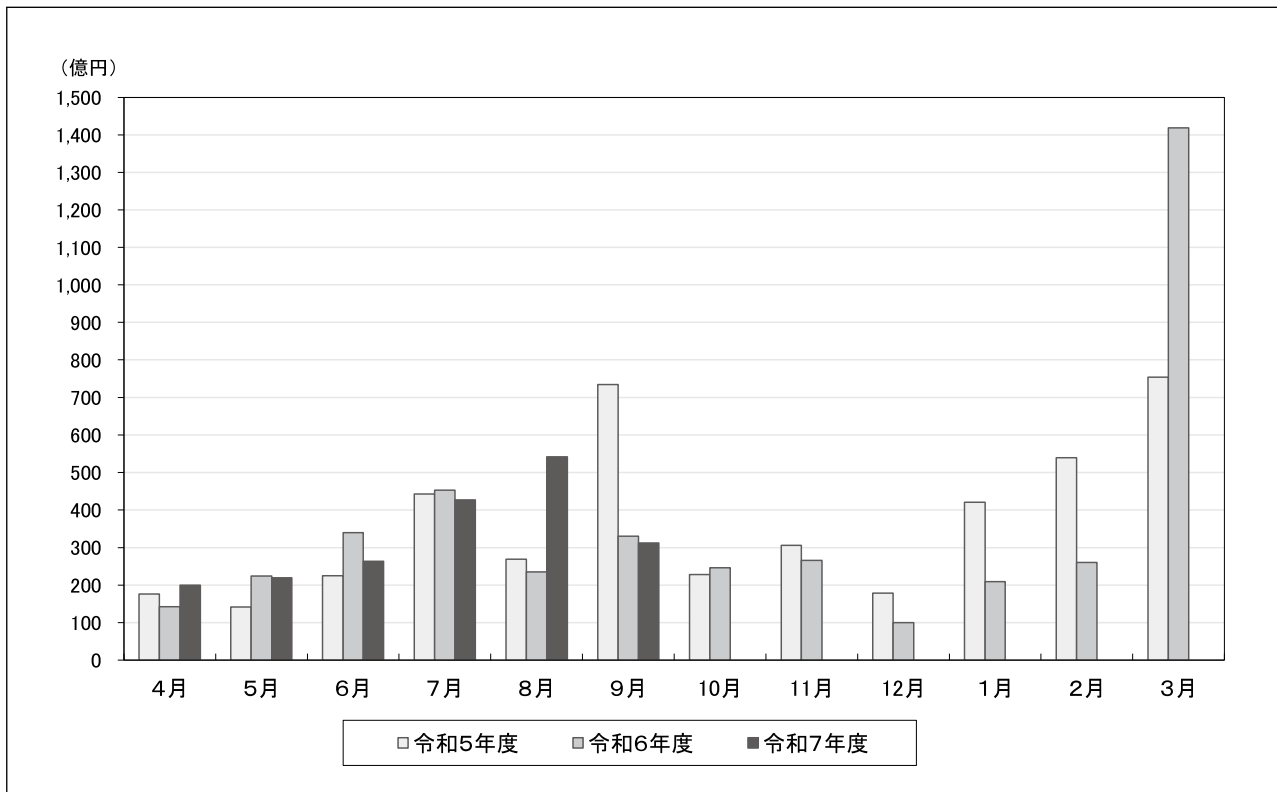
西日本建設業保証（株）沖縄支店

▼ 概況

（単位：件、百万円、％）

	当 月		増減率		累 計		増減率	
	件数	請負金額	件数	請負金額	件数	請負金額	件数	請負金額
国	39	9,469	56.0%	▲7.2%	221	81,511	18.2%	94.7%
独立行政法人等	2	196	0.0%	▲75.1%	15	2,280	▲46.4%	▲82.8%
県	103	7,673	▲14.2%	▲4.1%	471	45,520	▲3.5%	10.4%
市町村	157	11,213	▲15.6%	▲18.1%	798	57,166	▲0.1%	▲7.9%
その他	14	2,728	27.3%	751.9%	82	10,220	15.5%	▲28.2%
合 計	315	31,280	▲8.4%	▲5.2%	1,587	196,699	0.9%	13.9%
令和6年度	344	33,001	▲3.1%	▲55.1%	1,573	172,629	0.0%	▲13.3%
令和5年度	355	73,429	▲4.3%	150.2%	1,573	199,123	▲0.5%	13.0%
令和4年度	371	29,347	▲5.1%	▲45.5%	1,581	176,140	▲9.7%	▲16.8%
令和3年度	391	53,814	6.0%	64.3%	1,750	211,833	▲2.2%	17.7%

▼ 月別請負金額の推移



2025年10月
リニューアル!

NEW!

電子申請で業務を
もっとスムーズに!

建設現場労働者のための退職金制度

建退共

K E N T A I K Y O

電子化で、煩雑な申請や書類管理の
手間を大幅に軽減できます。

オンラインで
業務効率化!

工事関係書類の
電子化にも対応!

発注機関等への
提出作業が軽減!

詳しい情報はこちら ▶

建退共



<https://www.kentaikyotaisyokukin.go.jp/>



建設業退職金共済制度
建退共

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部
〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1 TEL.03-6731-2866

建設産業人材確保・育成推進協議会コンテンツのご紹介

『建設会社へGO! 企業マップ』をリリースしました！



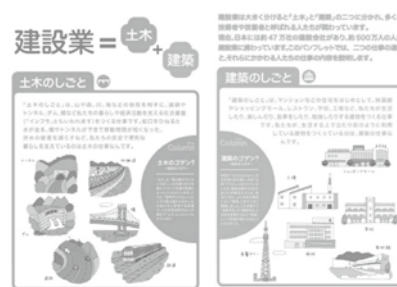
https://genba-go.jp/company_map/



有益な人材確保育成に取り組む優良建設企業を検索できるコンテンツをリリースしました！掲載企業は“日本地図”や“条件検索”からご覧いただけます♪（2024年12月末現在で107社掲載中）基本情報のほか、企業のPRや各種SNSのURL等を閲覧することができますので、学生さんや保護者の方にもご利用いただけます。

『ニッポンをつくる人たちまもる人たち』

「土木工事」と「建築工事」の仕事の違いや、モノができる工程に沿って紹介している冊子です！イラストが多く、小中学生でも分かりやすい冊子です♪



『建設産業ガイドブック』

建設産業の役割や土木・建築工事の仕事について、写真やイラスト等で分かりやすく紹介しています！それぞれの工事について、工程（作業）順に携わる工事業を紹介するとともに、各工事業については、仕事内容や関連する資格なども紹介している冊子です♪



冊子データは無料で
ダウンロード可能です！



<https://genba-go.jp/download/>

<お問い合わせ>

（一財）建設業振興基金 経営基盤整備支援センター 人材育成支援課 03-5473-4572

確かな安心へ全力応援。



割戻金の支払いが始まっています。

令和6年度分28.52%、令和7年8年も支払いは確定しています。

- 労働者と企業のリスクを同時にカバー
被災者補償(労働者福祉)と諸費用補償(企業防衛)
- 手厚い補償 保険金区分合計最高5,000万円
- 契約者割戻金制度により掛金負担が軽減

社員と家族、会社を守るために。

建設共済保険

法定外労災補償制度 制度創設55周年

今すぐ、
ご加入を!

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業

被災者(死亡および障害・傷病3級以上)の子どもに対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業

- ① 安全衛生用品の頒布
- ② 女性専用トイレ・更衣室導入費用の助成
- ③ 安全衛生推進者表彰 等

公益財団法人

建設業福祉共済団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門晴平タワー11階

■取扱機関：(一社) 沖縄県建設業協会

〒901-2131 浦添市牧港5-6-8

Tel. 098-876-5211 Fax. 098-870-4565

さらに新しくなった!
建設共済保険制度の10のポイント



詳しくは HP をご覧ください!

建設共済保険

検索



無事故の歳末 明るい正月

建設業
年末年始

労働災害 防止強調期間

2025.12.1-2026.1.15

コード No.760302
建設業労働災害防止協会

 建設業労働災害防止協会